

**【標題】 地域力のための調査手法の報告**  
長崎県の事例より

発表者氏名 ○田中 撰（乃村工芸社）

共同研究者 高橋信裕（文化環境研究所） 山城弥生（文化環境研究所）

**【キーワード】** 地域活性化 地域連携 文化観光施設 文化観光

**【概要】** 長崎県内の文化資源を地域力向上に活用するために実施した調査概要の報告と共に、地域活性化につながるイベントのリソース発見のあり方について発表する。

**【調査報告】**

**1. 目的**

長崎県では、県下の文化観光施設を文化振興、まちづくりの拠点として活かし、県政の重点テーマである「文化観光立県」実現の一環として寄与する構想策定を検討していた。そこで弊社が構想策定に向けた調査および提案づくりを行った。

**2. 調査手法**

- ・ 今回の調査では県内の 166 館の文化観光施設が対象となり、それぞれへのアンケート票の送付・回収に加え、調査員が現地調査を行い、文化観光施設の施設機能、企画展・イベントの活動状況や地域との連携状況などについて精査した。
- ・ また、住民に対する文化観光施設の認知度調査において、各地域の住民との対面式の聞き取り調査を実施し、文化観光施設の地域への貢献度について測定を行った。

**3. 調査結果**

- ・ 調査結果では、文化観光施設の専門職はもとより、運営スタッフの体制に不備が目立ち、全体の 7 割以上に十分な人員体制が敷かれていないことが明らかとなった。また、学芸員等の文化系の専門職同士のつながりや文化観光施設間のネットワークがないことも課題として顕在化した。さらに市町村合併の進展により、旧来の博物館、資料館が統廃合され、それにともない人員削減が促進し、資料公開・展示や教育普及が果たされず、単なる倉庫状態に陥っていることが顕著になった。
- ・ 住民への聞き取り調査からは、文化観光施設という空間の敷居が高いこと、様々な企画に取り組んでいながらも地元の観光との連携がとられていないこと、観光資源としての魅力化への取組みに市民を巻き込んで地元として盛り上げていないことなどの声を聞くことができた。
- ・ 一方では、文化観光施設スタッフのリーダーシップが地域振興に有効に働き、また地元のボランティアや市民団体と連携するなどして、まちづくりの中核施設として機能している例も見られた。

#### 4. 課題解決および考察

・これらの課題から、地域の文化や資源を継承、発展させ、新たな地域おこしの仕組みづくりが、地域それぞれの実情の下に作られ、それらが連携していくべき段階であるということが確認された。そこで、文化観光施設の設置主体（公立、私立など）や行政での所管（教育委員会、観光商工部門、文化振興部門、介護福祉部門、子育て部門等）、民間組織（商工会、商店街連合会、文化サークル、慈善団体、NPOなど）や館種等（博物館、美術館、ギャラリー、児童館、観光情報センター、工房、工場、農園、道の駅、図書館、物産館等）を結ぶ、柔らかな文化観光施設ネットワークをつくることを提案した。

・具体案では「ミュージアム・コンシェルジュながさき」という県全体を統括する組織と、各地域で核となる組織という2段構造の組織をゆるやかに結ぶネットワークの設置である。地域の核となる組織は地域活動に熱心な文化観光施設やNPO、大学、商工会など地域のまちづくりを担う団体・グループであり、地域の資源発掘や地域内でしかできない連携事業を行い、地域の人々の交流、人材育成、地域に密着したイベントをリードする。一方で「ミュージアム・コンシェルジュながさき」は、地域を横断した連携事業を行い、県内文化観光施設を中心とした各地域のイベントや文化活動の総合的な情報発信、人材の共有化、運営資金調達の見える化を行う。

・新たな地方文化の受け皿づくりとして、画一的な規制や体制ではない、それぞれの事情や特性、目的等を許容する緩やかで柔軟な絆づくりを行ったうえで、地域の深堀と地域住民主体のイベントづくり、そしてネットワークを活用した事業づくりが一層求められている。

